

室などを含めて順調に稼働してきており、市立病院の先生方には頑張っていたいただいているところです。

子ども急病夜間クリニック

市長 もう一つ草加市では、草加八潮医師会にお願いいたしまして、子ども急病夜間クリニックを運営しています。これは子育て世代のお母様方から強い要望をいただいていた、子どもの急病時間外クリニックです。こちらも365日、夜の7時30分から10時30分までの一次診療を休まず行っており、電話による事前連絡なしでも受診できる診療所です。開院後は年間5000名ほどの乳幼児、小児が受診され、好評をいただいております。受診後に血液検査やレント



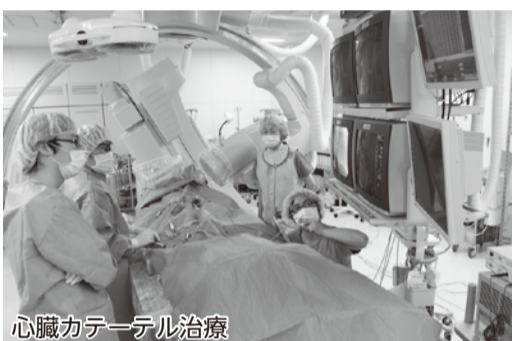
地域医療連携

学長 大学附属病院では、草加

ゲン検査など精密検査を必要とするお子さんは、すぐに同じ敷地内の市立病院小児科を受診できるシステムで、過剰勤務に追われていた市立病院の小児科の先生方を支援する体制となっております。

学長 地域の特色や要望に応えた医療形態が必要というわけですね。埼玉県は東京の近郊都市ですが国の統計を見ますと、今後急速に高齢化が進んでいくと予想される街でもあり、今後は高齢者医療も課題となってくるでしょう。そのような観点から、大学も心臓病、脳血管障害、がんなど幅広い診療体制を支える専門医師を派遣し、バックアップしていきたいと思えます。

市立病院をはじめ多くの関連病院と「医療連携支援センター」という部門を通して密接な連携を推進しています。これは、例えば潰瘍性大腸炎やクローン病、悪性関節リウマチ、神経難病、がん、頭頸部腫瘍など、現在では治療困難といわれている様々な病気に対して、大学病院で最先端の医療を希望される患者さんに、平等な機会を提供するためのシステムといえます。この「医療連携支援センター」は、患者さんへの直接の受診依頼窓口ではなく、医療機関向けの窓口です。ですから、草加市民の方々は草加市立病院を受診されご相談いただければ、無駄な時間がなく、必要に応じて大学病院を受診することができますということになります。当然のように、草加市立病院も二次医療機関ですから、同じようなシステムを地域の医療機関との間に設置しているでしょう。この制度はより高度な医療をスムーズに提供するための有効なシステムですから、国民の方に広く知っていただく必要があると思えます。



心臓カテーテル治療

る方も多く、紹介率は40%に達しておりません。親しみやすい病院、あるいは人気の高い病院と言えるのかも知れませんが、その分外来が大変混雑し、悪循環となっております。診療予約のある方でも、予約外の患者さんが多くその時間に診療が受けられなかったり、初めての方は診察待ちで大変な時間を費やしているお苦情も増えています。地域の先生方の診療所を活用していただければいいのだろうと思いますが、一般的な患者さんの心理として、どうせ病院に行くのであれば、できるだけ大きな病院へ、設備の整った病院へという気持ちもわからないわけではありません。医師会の先生方のご意見もお尋ねし、市長として市の施策を考えていかなければならないところです。

市民の健康づくり

市長 草加市は昭和53年に「スポーツ健康都市宣言」をし、平成24年度からは「SKT24推進事業」を立ち上げました。これは24万市民がスポーツに親しむことにより、健康志向を持つていただくようにする市民運動です。さらに子どもたちには食育を通して、健康な体づくりをしていただくとも思っています。健康を維持すれば病院のお世話にならなくても済むわけですから。

学長 確かに「健康づくり政策」を進めることは大きな意義があると思えます。病気の予防というのは非常に大事です。でもどうしても運動に取り組み人が限定されてくるという弱点もあるのではないのでしょうか。例



市民公開講座「脳卒中を知ろう」

えば6か月運動を続けた人が、やる前とやった後で何が変わったかを医学的に検証してあげることも大切ですね。また、市民向けの健康講演会の開催も必要でしょう。大学ではこのような予防医学をさらに一歩進めて、一人ひとりの遺伝子を解析できる施設を設け、その人が遺伝的に起こりやすい病気を予防するための医学的介入を行う、そういう診療部門を設置する計画も立てています。

大学と病院との人事交流を

学長 これは大学からのお願いですが、今後、双方の組織で職員の仕事交流を積極的に考えていくという事を実現するようにしたいのです。どうしても長く一つの組織にいますと思考が狭くなってきます。それで医師だけでなく事務職員や薬剤師、放射線技師、臨床検査技師なども交流してはどうかと考えています。

市長 現在、草加市でも埼玉県と厚生労働省からそれぞれ都市整備部や教育委員会に優れた方を招いています。教育委員会では、幼稚園・保育園から小学校、小学校から中学校への就学をス

吉澤靖之 よしざわ・やすゆき

東京医科歯科大学長

- 昭和45年 東京医科歯科大学第一内科
- 昭和47年 東京通信病院
- 昭和52年 イリノイ大学
- 昭和53年 ウィスコンシン医科大学
- 昭和59年 筑波大学助教授
- 平成5年 東京医科歯科大学助教授
- 平成10年 呼吸器科教授
- 平成20年 副学長
- 平成26年 学長



ムーズにするためのプロジェクトで、厚生労働省からの職員派遣は草加市からお願いしました。

学長 優秀な職員を交流させるのも有効だと思っておりますが、お互いの組織で交流した後に優秀な人に育てていくという制度を今考えています。

市長 他の組織の優れたノウハウを吸収して、自分のところに戻ったときにそれを取り入れて仕事のやり方を改善したり、組織を活性化させていくということを狙っているわけですね。確かに同じ環境に慣れすぎていると、新鮮な発想が出てくるようになるのかもしれない。

学長 大学職員も民間を含めて人事交流など今までになかった活動を求められています。それは優秀な人材を育てるために貢献する制度だと思えます。また、

お互いのミッションを成功させましょう

市長 今日は長時間お時間をいただきありがとうございます。草加市の24万市民が生涯を通じて健康な生活を送るためにも市立病院の存在は欠かせません。また、何よりも安心して受けられる救急医療や高度医療を一番求めています。今後もぜひご支援をいただきたいと思えます。

学長 お互いのミッションを達成するために、共に助け合って発展してまいります。こちらこそ草加市のご支援を重ねてお願いいたします。